



世界の農業・農政

ブラジルの農業の拡大と農業政策

国際領域 上席主任研究官 清水 純一

1.はじめに

ブラジルは21世紀に入り、世界最大の農産物純輸出国となり、今やアメリカと並ぶ農業大国として世界農産物貿易市場において存在感を高めています。輸出品目も、かつての一つの品目に栽培を集中して輸出するモノカルチャーから、近年は多様な品目を輸出する農業へと転換しています。中国が大豆を初めとして大量の食料を輸入している現在、ブラジルは世界の食料貿易の安定要因として重要な役割を果たしています。本稿では、このブラジル農業の成長の過程と現在の姿を紹介したいと思います。

2. ブラジル農業の変遷

(1) 輸出農産物の「サイクル」

ブラジル農業は1500年にポルトガル人に「発見」された当初から、農産物の輸出型産業で始まりました。しかし、単品に特化して生産するモノカルチャーが主体であり、ある作物が衰退すると次に主役となる作物が交代する「サイクル」を描いていました。最初のサイクルを担ったのがブラジルの国名の由来にもなった「パオ・ブラジル(ブラジルの木)」です。これは衣料の染料として宗主国であるポルトガルへ輸出されました。これ以降、1530年代に始まった砂糖、17世紀初頭に奴隷貿易用にアフリカに輸出されるようになったタバコというように主役が交代し、19世紀にはコーヒーがブラジル全体を代表する輸出品品になりました。なお、19世紀末から20世紀初頭にかけての短期間にはゴムもコーヒーと並ぶ輸出品品でした。

第1表 ブラジルの主要輸出農産物の世界貿易(輸出)に占めるシェア

	品目	年(度)	順位	シェア
新品目	大豆	2013/14	1位	41.5%
	大豆ミール	2013/14	2位	23.4%
	大豆油	2013/14	2位	15.0%
	トウモロコシ	2013/14	2位	17.0%
	牛肉	2013	1位	20.3%
	鶏肉	2013	1位	34.0%
	豚肉	2013	4位	8.3%
	エタノール	2013	1位	26.2%
伝統品目	コーヒー	2013/14	1位	28.8%
	オレンジ果汁	2012/13	1位	76.3%
	砂糖	2012/13	1位	44.0%

資料：エタノールはF.O.Licht. 他はUSDA, FSA, World Markets and Trade.

注. 数量ベース.

現在、ブラジルは世界一の農産物純輸出国であると最初に述べました。では、何を世界市場に輸出しているのでしょうか。第1表をみてください。ブラジルの現在の輸出農産物は何か一つに特化しているわけではなく、コーヒー、オレンジ果汁、砂糖といった比較的歴史の長い輸出品目(伝統品目)に加え、大豆関連製品、トウモロコシ、食肉、エタノール等、比較的最近主力の輸出品目になった品目(新品目)も世界で高いシェアを持っています。このように、かつての単一品目に依存するモノカルチャーから、現在では多様な品目が世界で高いシェアを占める農業へと転換しています。

次の第2表は2013年を対象に輸出農産物の構成を示したものです。これを見ると、コーヒー、タバコ、果汁、木材といった伝統品目よりも、大豆関連製品、食肉といった所得が高くなるほど需要が増える、所得弾性値が高い新品目の比重の方が高いことがわかります。トウモロコシは現在金額シェアこそ低いものの、21世紀に入ってから輸出品目となり、近年世界シェアが拡大している注目される産品です。

次にこれらブラジルからの農産物輸出増を支えた生産の拡大についてみてみましょう。ここでは紙幅の関係で大豆も含めた穀物生産に注目してみます。

(2) 生産拡大の経緯

第3表は過去30年間における主要穀物の生産量と作付面積の推移を示したものです。30年前の1982/83年度には4,765万トンであった生産量は、2002/03年度以降、恒常的に1億トンを上回るようになり、2012/13年度には1億8,866万トンと1982/83

第2表 輸出農産物の構成(2013年)

輸出品目	金額 (100万ドル)	構成比
大豆関連製品	30,961	31.0%
食肉	16,803	16.8%
砂糖・エタノール	13,718	13.7%
木材	9,635	9.6%
コーヒー	7,252	7.3%
トウモロコシ	2,295	2.3%
タバコ	4,582	4.6%
皮革製品	650	0.7%
オレンジ果汁	3,027	3.0%
綿花	1,107	1.1%
その他	9,938	9.9%
合計	99,968	100.0%

資料：ブラジル農務省(MAPA)

注. 大豆関連製品は、大豆、大豆ミール、大豆油の合計.

年度の3.96倍にまで生産量を伸ばしています。

内訳をみると、大豆とトウモロコシの生産量が大きく、両者で1億6,300万トンと全体の86%を占めています。大豆は2002/03年度に生産量が5,000万トンを超え、その年度以降トウモロコシを抜いて最大の生産量を誇る作目になっています。

次に同じ表で作付面積の推移をみますと、同じ時期に3,721万haから5,356万haへと1.44倍になったにすぎません。これをもってブラジル農務省はブラジルの穀物生産の拡大は面積ではなく生産性（単収）の向上によるものと説明しています。しかし、個々の作物を検討してみるとそう単純ではなく、大豆は生産量が5.61倍と最も増加率が高かったのですが、作付面積も3.3倍と大きく拡大しており、単収と同様、作付面積拡大の貢献も大きかったことがわかります。これに対して、トウモロコシの場合は、生産量が4.29倍になったのに対し、作付面積は1.36倍になったに過ぎず、単収の伸びが大きく貢献したことがわかります。

この結果、大豆、トウモロコシの自給率は大幅に上昇し、いずれも現在のブラジルの主要輸出品目になっています。

3. 現行の農業政策の体系

最後にブラジルの農業政策について簡単に紹介しておきましょう。一言で言えば、ブラジル政府の農業政策は極めて市場志向的です。背景には1990年代初頭に、市場原理に基づく自由主義経済政策へと政策転換したことがあります。OECDが各国の農業保護の程度を比較するために採用している指標（パーセントPSE）でみても5%（2008～2010年平均）とOECD平均の21%や日本の50%と比較して、極めて低い保護水準になっています。

現在、ブラジル農務省が農業政策の手段として重視するものの一つは農業金融です。ブラジルは世界有数の高金利国で、市中金利で借った場合、農業者が農業から得た収益で返済することは不可能です。そのため、政府の公的農業金融では、毎年度融資枠が設定され、農家に低利で貸し出されています。融資の資金源として特徴的なのは、銀行の預金残高の

一定割合を政府が定めた低金利で農業に融資しなければならないという制度が存在することです。

次に、市場価格変動のリスクを軽減する政策として最低価格保証制度があります。基本的には作目・地域別に定めた最低価格を市場価格が下回った時に政府が最低価格を保証する制度です。実施に当たっては政府負担が軽減されるように様々な手段が開発されています。この制度が本格適用されるようになった1960年代には市場価格が最低価格を下回った場合、政府が農家から直接作物を最低価格で買い上げていました。しかし、1990年代中頃からは、作物を買い上げるのではなく、最低価格と市場価格の差のみを政府が負担するなど、政府が在庫をなるべく持たずに財政負担を軽減するような政策手段を重用するようになってきています。

上記の二つの手段を補完するものとして、2005年から始まったのが農業生産の変動リスクを軽減するための農業保険料補助制度です。これは民間の農業保険の保険料の一部を政府が補助する制度です。制度発足初年度にこの制度でカバーされている作付面積はわずか7万haでしたが、2013年には960万haへと急激に拡大しています。

この他にもさまざまな政策があり、その具体的内容は毎年、新しい農業年度が始まる7月前に政府から発表され、7月以降1年間、この計画に則してブラジルの農業政策が遂行されていくことになります。

ブラジルには農務省以外に農業と関係する省庁として農業開発省があります。これは1999年に農務省から分離した組織で、農地改革や、零細農家を対象とした家族農業強化計画の推進を担当しており、どちらかという社会政策的な業務を司っています。これに対して、農務省は技術革新を推奨し、農業全体の生産性を上げることにより農産物輸出を拡大することを目的とするように棲み分けができています。

最後に触れておかなければならないのが、ブラジル農牧研究公社です。同公社は様々な農畜産物の研究開発を行っており、本部の他に作物別の研究所と地域別の研究所があります。政府の農業に関する技術開発計画の中核を担っており、ブラジル農業の技術進歩に多大な貢献をしています。

第3表 穀物生産の推移

	1982/83		1992/93		2002/03		2012/13		倍率	
	生産量 (1,000トン)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000トン)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000トン)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000トン)	作付面積 (1,000ha)	生産量	作付面積
大豆	14,532.9	8,412.0	23,042.1	10,717.0	52,017.5	18,474.8	81,499.4	27,736.1	5.61	3.30
トウモロコシ	19,015.0	11,658.2	29,207.7	12,436.3	47,410.9	13,226.2	81,505.7	15,829.3	4.29	1.36
コメ	8,225.4	5,181.2	9,903.0	4,458.5	10,367.1	4,378.7	11,819.7	2,399.6	1.44	0.46
小麦	2,191.4	5,496.1	2,051.8	4,385.3	5,851.3	3,186.1	5,527.9	2,209.8	2.52	0.40
フェジョン	1,654.8	1,932.1	2,379.0	1,641.9	3,205.0	2,464.2	2,806.3	3,075.3	1.70	1.59
その他	2,035.1	4,532.7	1,669.6	1,982.3	4,316.2	2,216.8	5,499.0	2,312.9	2.70	0.51
合計	47,654.6	37,212.3	68,253.2	35,621.3	123,168.0	43,946.8	188,658.0	53,563.0	3.96	1.44

資料：ブラジル食料供給公社（Conab）

注(1) 作付面積は延べ面積。トウモロコシは年2作、フェジョンは年3作、「その他」に入っている落花生は年2作の面積が合計されている。

(2) 倍率は1982/83年度から2012/13年度にかけてのもの。